令和２年産　果樹情報（第２号）

令和２年５月 18 日
宮城県大河原農業改良普及センター

１　気象経過と果樹作況調査ほの発芽・開花状況

アメダス白石地点の月平均気温は，３月が 5.9℃で平年より 1.6℃高く，４月が 9.0℃で平年より 1.2℃低く経過しました。４月の降水量は 253.5mm で平年の 261%でした。

大河原管内の果樹作況調査ほの発芽・開花状況は，表１のとおりです。

満開期は，りんごのふじが平年並，なしの幸水が平年より 1～2 日早い，豊水が平年より 3～6 日早い，もものあかつきが平年より１日早い状況です。

表１　発芽・開花状況

樹種	品種	地点	発芽期		展葉期		開花始		満開期		落花期	
			本年	平年	**本年**	平年	**本年**	平年	**本年**	平年	**本年**	平年
りんご	ふじ	白石・郡山	**3/23**	3/31	**4/3**	4/10	**4/26**	4/26	**4/30**	4/30	**5/6**	5/6
なし	幸水	角田・豊室	**3/26**	4/3	**4/12**	4/18	**4/17**	4/22	**4/23**	4/25	**5/2**	5/4
		蔵王・高木	**3/30**	4/17	**4/21**	4/21	**4/25**	4/26	**4/27**	4/28	**5/5**	5/6
	豊水	角田・豊室	**3/23**	3/31	**4/7**	4/15	**4/14**	4/19	**4/17**	4/23	**4/27**	5/1
		蔵王・高木	**3/28**	4/3	**4/10**	4/17	**4/17**	4/24	**4/24**	4/27	**5/4**	5/5
もも	あかつき	丸森・舘矢間	**3/18**	3/26	**4/10**	4/17	**4/12**	4/12	**4/17**	4/18	**4/24**	4/25

２　樹種ごとの管理

（１）　りんご

イ　仕上げ摘果

・満開 60 日後まで（白石・郡山「ふじ」は６月 29 日頃）を目安に終了すると果実品質が高まります。

・標準的な適正着果量は表２のとおりです。樹勢が強い場合はやや多めに，弱い場合には少なめに摘果を行い，結実の少ない園地では着果数の確保を優先します。

表２　品種別の適正着果基準

品　　種	着果量の目安	1果当たりの必要葉数
つがる，ジョナゴールド，紅玉	3～4頂芽に1果	45枚～60枚
ふじ，王林，陽光，さんさ，秋映	4～5頂芽に1果	60枚～75枚

・残すべき果実は中短果枝（20cm以内，特に果台枝）や頂芽の果実です。果台枝は摘果時に伸長が止まっており，長さが15cm以下のものとし，果台枝が2本発生しているものは良くありません。また，果そう葉が多くあり，果柄が長くて太く，果実は縦長で肩が張っている果実（ふじ）で，果実の着果している果台部分から新梢が発生していることが理想です。

・摘果する果実は小玉果，変形果，障害果（さび，傷，病害虫等），逆さ実，長果枝（概ね 30cm 以上）先端の果実，果台部分の長さが極端に長い（2cm 以上）か短い（1cm 以下）ものです。ふじ等で着果量が少ない場合は，樹勢調節のために果台が 2cm 以上の果実も着果させます。

ロ　新梢管理

・樹冠内部への日照を妨げている場合や，防除薬剤の到達を妨げている場合など，必要に応じて徒長枝を切除します。
・太枝の切り口付近や背面，わい化樹の側枝基部などから強い芽が発生してくるので，長大化する前に芽かきを行います。

ハ　カルシウム剤の果面散布

・果実にビターピットやコルクスポットの発生しやすい園地では，幼果期以降にカルシウム剤を複数回果面散布すると防止効果があります。

ニ　病害虫防除

・斑点落葉病，炭そ病，褐斑病，アブラムシ類，ハマキムシ類
　これらの病害虫に対する主要防除時期を迎えるので，十分な散布量を確保して散布ムラのないよう薬剤散布を行います。
・黒星病
　青森県，長野県ではDMI剤（FRAC：3）耐性菌が発生しています。これらの地域から苗木を導入したときには病斑の有無に注意するとともに，苗木にもしっかり防除を行います。

（２）　日本なし

イ　仕上げ摘果

・開花期の4月中旬～下旬に気温が低かったことから，一部の園地では，受粉が不完全で結実量が不足気味になっています。
・凍霜害を受けた園地では果実がサビ果，奇形果になりやすいので，仕上げ摘果は障害の程度が明らかになった後に行います。それ以外の園地では満開後50日頃までに，果そう葉が多く，果形の良い大きな果実を残します。
・小玉果が目立つとき，新梢の生育が悪いときには着果量を調整します。単位面積当たりの着果量に留意しながら作業を行います。なお，裂果が観察される時期には他の果実裂果を助長する恐れがあるので，摘果を控えます。

ロ　新梢管理

・新梢のせん除
　側枝基部に発生した強い新梢や主枝・亜主枝の背面から発生した新梢のせん除を行います。時期は満開後45日～60日を目安に実施します。この時期以降では樹勢低下や果実糖度の低下を招くので注意します。
・予備枝の管理
　幸水の予備枝誘引適期は，新梢停止期の約10日前の満開後65日頃になります（新梢長90～100cm，展葉節数が18～20節程度）。
　長果枝せん定で予備枝を取らず，潜芽から出た新梢を利用した場合には，翌年の結実が不良になりやすいので要注意です。

ハ　病害虫防除

・黒星病
　4月の降水量はかなり多く,今後は葉柄や果実への感染が増えるものと予想されます。
　果そう基部の病斑，り病葉及びり病果は二次伝染源となるので見つけしだい取り除き，ほ場に放置せず地中に埋めるなど適切に処分するとともに，降雨があるときは薬剤防除

間隔を 10 日以上空けないようにします。
・シンクイムシ類，ハダニ類
　ほ場内の観察や発生予察情報を参考に，発生初期の防除に努めます。

（３） もも

イ　摘果

・仕上げ摘果は，満開後 40 日頃から硬核期開始の満開後 50 日頃までに実施し，硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。
・着果量の目安：長果枝は 1～2 個，中果枝は 0～1 個，短果枝は 0～1 個

ロ　新梢管理

・5 月下旬～6 月中旬頃は新梢の生育が最も盛んな時期なので，樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が混雑しやすくなります。樹冠内部，主枝・亜主枝・側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し，全体に光が当たり，風通しが良くなるように心がけます。なお，樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し，夏季せん定を行わないか，最小限とします。
・硬核期間中の過度な夏季せん定は，核割れや生理落果を助長するおそれがあるので最小限とし，硬核期終了後に実施します。

ハ　病害虫防除

・せん孔細菌病
　今後の風雨によって発生が急激に増加するおそれがあるため，春型枝病斑のせん除と気象に応じた適期薬剤防除を徹底します。春型枝病斑は，新梢及び新梢葉の生育不良やり病葉の発生位置が発見のポイントです。
・ホモプシス腐敗病，灰星病
　芽枯れや枝枯れが見られる場合には，見つけ次第せん除します。重要防除時期なので，薬剤防除を徹底します。
・薬剤散布に当たっては早生種の収穫時期に十分注意し，使用時期（収穫前日数）を遵守します。